

第2回メンター研修について

平成23年10月25日(火)、26日(水)に常三島地区と蔵本地区でメンター研修が開催されました。

講師の植山哲文氏(株式会社インソース)からメンターについての基本的な知識やコミュニケーションスキルの習得についての指導がありました。

この制度により、徳島大学の女性研究者(女子大学院生を含む)が、今後のキャリア形成、就業継続のために、女性研究者が抱える諸問題について、経験豊かな先輩研究者(メンター)から助言を受けることができる制度を整えていきます。

現在、36名の現役教員がメンターに登録されていますが、今後も引き続き職員を対象とした、メンター研修を実施していきますので、皆様是非ご参加していただき、メンターとしてご協力くださいますようよろしくお願いします。

男女共同参画シンポジム in 徳島大学 夢ある未来を拓こう！

平成23年11月12日(土)、工業会館(メモリアルホール)において、啓発セミナーが開催されました。

教員、大学院、他大学関係者等、約69名が参加しました。

香川学長の開会挨拶に始まり、講師には相馬芳枝氏(神戸大学特別顧問)と鳥取桂氏(大塚製薬株式会社常務執行役員・人事部徳島駐在部長)をお招きました。相馬氏が、「女性研究者よ！がんばろう！」と題し、基調講演をされました。

引き続き、鳥取氏による「未来に向けて女性の力を活かそう！」というテーマで、企業でのご自身の経験を踏まえて女性の力を社会に活かすための講演をされました。

その後行われた質疑・討論では、多くの参加者から活発な質問があり、ディスカッションが行なわれました。最後に、五十嵐理事が閉会の挨拶を述べ、盛況のうちに幕を閉じました。

参加した研究者や学生からは、「大学の女性支援・企業での女性支援という2つの視点での講演がよかったです。」「輝いている先生方に接して大変影響を受けた。」などの感想が寄せられました。

第3回徳島大学女性研究者交流会について



平成23年11月22日(火)、PARK WESTONで、第3回徳島大学女性研究者交流会が開催され、39名が参加しました。本仲センター長の開会のことばに始まり、香川学長からご挨拶がありました。

た。続いて、五十嵐理事に乾杯の発声をいただきました。



石川研究部長、玉置研究部長、大西研究部長からそれぞれの学部の現状、女性研究者支援の取り組みなどについて、メッセージが述べされました。

終了後には「日頃、会えない先生方との情報交換ができるよかったです。」「次回も是非参加したいので開催してほしい。」など、好評をいただきました。

徳島大学AWA(OUR)サポートシステムシンポジウム2011 徳島から世界へはばたけ！研究者



平成23年12月16日(金)、日亜メディカルホールにて、シンポジウム「徳島から世界へはばたけ！研究者」が開催されました。

当日会場には、新蔵地区・常三島地区・蔵本地区から159名の参加がありました。

五十嵐理事の挨拶後、高井美穂氏(衆議院議員)と板倉周一郎氏(文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長)から来賓挨拶がありました。

次いで、都河明子氏(前東京大学・男女共同参画室特任教授)から「世界から見た日本の女性研究者」と題し、女性研究者に対するどのような施策が必要かをキャリア支援、ライフ支援等にかけて提言し、将来の展望について述べされました。保倉明子氏(東京電機大学工学部環境化学科准教授)から「研究を楽しむ～理系女性研究者のワークライフバランス～」と題し、仕事と家庭の両立には、周囲の温かい理解と協力が必要であるなどのアドバイスがありました。社会全体で仕事と家庭を両立できる環境を整えていくことの大切さを感じました。井崎博文氏(徳島大学病院泌尿器科総務医長・講師)からは、「女医さんがUro(泌尿器科)にやってきた！女性研究者を女房にもつ医局長の男女共同参画」と題して、基調講演をされました。

次に、本仲センター長の進行により、「～徳島大学における男女共同参画の推進と研究者支援について～」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。五十嵐理事から「徳島大学男女共同参画についての取り組みについて」、玉置研究部長から「徳島大学における男女共同参画の推進と研究者支援について」、山内副センター長からは、「徳島大学 AWA(OUR)サポートシステムの活動報告について」と題し、これまでの本学における男女共同参画の取組状況や課題について説明されました。

続いて、板倉周一郎氏から「女性研究者の現状・支援について」と題した、特別講演が行われました。板倉基盤政策課長からは、女性研究者割合の比較や女性研究者が少ない理由に関するデータを示し、女性研究者が研究と出産、育児等を両立し、研究を維持するための研究支援などの環境整備を行うことが必要である。今後、日本の少子化を考えてもそれぞれの分野における女性の割合を高め、優れた人材を絶え間なく育成、確保していくことが不可欠あるなどのアドバイスがありました。

質疑応答では、女性の就業支援、両立支援についての実効性のある取組について質問が寄せられまし

